

## ②8 コロナ禍における防災啓発の試み ～新しい生活様式を踏まえて～

受賞機関 一般社団法人中部地域づくり協会

**キーワード** コロナ禍、避難インフルエンサー、浸水疑似体験VR、YouTube

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

コロナ禍において接触型の防災啓発が困難な中、大切な命を守るための防災啓発の取組。避難インフルエンサーの育成を目的にVR等を活用した防災講座の実施やYouTubeを活用した非接触での新規性の高い取組である点や、コロナ禍での防災啓発手法が全国に展開されることで、防災意識の向上が期待される点が評価された。

### 1. はじめに

新型コロナウイルス感染拡大予防に伴い、防災に関するイベント・訓練・講演会が中止や延期となる中、令和2年は東海地方を襲った東海豪雨から20年の節目にあたった。中部地方ではこの災害以降大規模な災害に見舞われておらず、もし同様な災害が発生すれば、平成30年7月豪雨において避難率の低さが問題視されたと同様な事態に陥り、更にコロナ感染症の影響から避難が一層遅れる事が予想される。この様な現状を踏まえ、「大切な命を守る」ため、コロナ禍で実施できる新しい生活様式を踏まえた防災啓発を試みた。

### 2. 事業の概要

第1に、コロナ禍における早期避難に向けた教育支援として、地域で避難の呼びかけが出来る人「避難インフルエンサー」の育成を目的に、これから社会資本整備に関わる土木系の高校生に対し防災講座の取組を行った。講座は、早期避難の大切さの理解を目標として、経験したことのない水害を自分事として捉えられるよう、浸水疑似体験VRや浸水疑似体験映像により浸水を「体験」し、水害の怖さを知ったうえで、近年の水害や伊勢湾台風などの地域で起きた過去の水害、住まいの地域特性、避難率の低さや避難時の声掛けの実態、コロナ禍の対応などを「学ぶ」ことで、「守られる人」から「守る人」への意識の変革を図った。

また、中部地方の大規模災害は昭和30～40年代に集中しており、記録は白黒写真によるものが多く、AI技術を用いてカラー加工し、更に類似災害と比較することで身近に起こりうる災害として伝える取組を行った。

第2に、防災イベント等の中止により啓発資料を配布する事が困難なことから、東海豪雨20年を特集した防災啓発冊子を電子冊子とし、自宅で災害を学んで貰える様、当協会のホームページで公開した。また、浸水疑似体験VRは、コロナ禍を考慮し、不特定多数の方が使用

する場での活用を控えた事から、VRを2D映像へ変換加工しYouTubeで公開した。現在ではあつ森（あつまれ動物の森）を活用した防災啓発動画も公開している。



防災講座の様子

### 3. 事業の成果

防災講座は、6校12講座を実施し、受講した生徒からは「地域のお年寄りや子供達の避難補助をしたい」「近隣の人に呼びかけ早期避難したい」「今後、地域に貢献ができる技術者になりたい」などの感想が寄せられ、防災意識の向上、避難インフルエンサー育成への効果が確認できた。

また、防災啓発冊子や浸水疑似体験映像の公開、その他の様々な取組は、積極的な記者リリースにより報道機関に多く取り上げられ、外部からの多数の問い合わせなど公開の浸透がみられた。報道機関を通じた防災啓発は、市民等への効果的な啓発活動に繋がった。



ホームページ等で公開した防災啓発冊子・浸水疑似体験映像

### 4. おわりに

引き続き、防災講座を継続していくとともに、現在、新しい生活様式を意識したバーチャルによる啓発ツールの検討を進めており、今後も時代のニーズを捉えた有効な取組を進めていきたいと考えている。